

**部門名:**  
校内研修プログラム  
開発・実践部門

**エントリー名:**  
栃木県那須町教育委員会学校教育課 増子智和  
(栃木県那須町立那須中央中学校)

**活動名:**  
地域を巻きこむ学力向上  
P D C A サイクルをいかす学力向上

**解決すべき課題**

全国学力学習状況調査や、県独自の学習状況調査の結果を踏まえ、学力向上に関する取組や校内研修のあり方を考える。中央研修で学んだカリキュラムマネジメントを意識した研修を行う。

**目標・方針**

課題解決のために、下の視点で本校生徒の学力向上に向けた取組や校内研修を考え、実践する。

- 1 教師の指導力向上
- 2 保護者の理解、協力
- 3 学ぶ意欲・学習習慣の定着

**活動内容**

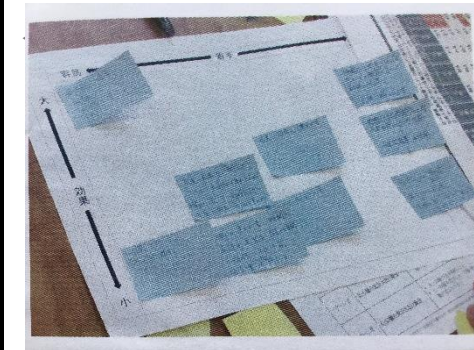
4月下旬：全国学力学習状況調査、県独自の学習状況調査の自校採点  
7月中旬：校内研修と学力向上ロードマップの作成。  
8月下旬：町内学力向上推進委員会への参加。  
9月上旬：学力向上ロードマップに従い、実践する。(学級活動、理科)  
12月上旬：町内総合学力調査の実施  
12月中旬：校内研修と振り返り

**活動の成果**

- 1 教師の指導力に関して
  - (1) 教師全体に本校の課題を共通理解させることができ、授業実践に生かせることができた。
  - (2) 異なる教科、学年、年齢をグループ化することで、様々な視点や価値観から討議ができた。
  - (3) 研究授業(公開授業)に対する抵抗や孤立感が軽減した。
- 2 保護者の理解、協力に関して
  - (1) 学力向上推進委員会へ P T A 役員が参加することにより、地域・家庭でできることを考える良い機会となった。
  - (2) 生徒意識調査から、家庭生活習慣の特徴を明確にすることで家庭との連絡・連携について焦点化しやすくなった。
- 3 学ぶ意欲・学習習慣の定着に関して
  - (1) 授業のねらいや授業の流れを明示することを徹底することで、授業に対する取組が前向きになった。
  - (2) 保護者の意見を聞きやすくなり、進路学習にも取り組みやすくなった。

**アピールポイント (アイデアや工夫)**

- 指導案には板書型の指導案を採用し、授業者の負担を軽減するとともに、参観者の授業参観の焦点を絞りをやすした。
- 県教育委員会や町教育委員会の施策や研修を活用することで、教員個人の負担を軽減できた。
- 家庭と連携し、生活習慣を見直す「チャレンジウィーク」への意識が高まった。
- 昨年度の同時期(同集団)と比べ、12月の総合学力調査の結果が上がっていた。



(写真1)

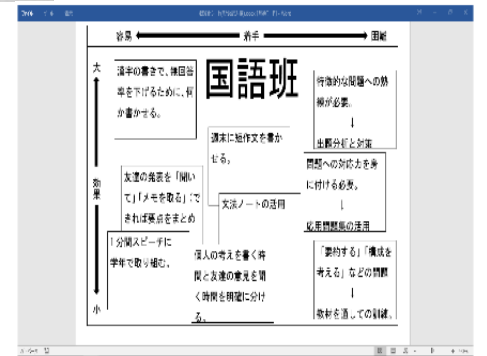


(写真2)

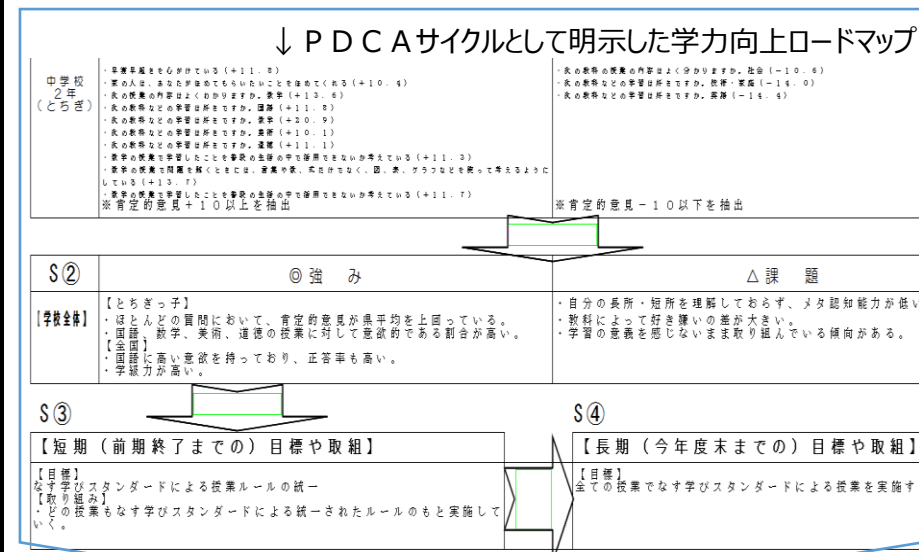
←校内研修とロードマップの作成

↑「効果の大小」と「着手難易」のマトリクス

教科ごと、生徒質問紙ごとに分かれたまとめ(表1) →



↓学力向上推進委員会(本町と本校児童生徒の弱み、強みを比較・P T Aとも共有)(写真3~5)



～P T Aを含めた研修会から～  
本校生徒は比較的まじめで規範意識も高く、指示されたことはきちんとやり遂げる良さをもっている。小学校低学年からの意識高揚を狙っていく。

D層の生徒に視点が生きがちであるが、A層の生徒をさらに伸ばす宿題の提示や家庭での働きかけが課題。

家庭生活のメリハリが学力にも大きな影響があると感じた。

国語	数学	英語
+0.6	1.1	0.6